

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3	2	必修
担当教員			
橋本 勉			
火3、火4			
添付ファイル			

科目の概要	解剖生理学では、正常な人体の仕組みについて、個体とその機能を構成する遺伝子レベル・細胞レベルから組織・器官レベルまでの構造や機能を学びました。 病態生理学では、さまざまな病気の成因や発症・進行に伴う生体の形態や機能の変化、病態評価や診断・治療の基本的な考え方を学び、病気とはどのように発生し変化していくのかを全身的・総合的に捉えると共に、臓器別に学修します。 病態生理学Ⅰで教科書の前半、具体的には疾患の診断と治療の概要を学んだ後、栄養・代謝疾患、内分泌疾患、消化器疾患、循環器系疾患、生活習慣病について学修しました。 病態生理学Ⅱで教科書の後半、具体的には腎・尿路系疾患、神経・精神系疾患、呼吸器系疾患、血液・造血器系疾患、循環器系疾患、運動器（骨格系）疾患、皮膚系疾患、免疫・アレルギー系疾患、婦人科疾患、その他について学修します。
授業の内容	第1回 第8章 腎・尿路系疾患（1） 腎尿路の解剖生理の復習、糸球体濾過について（配布プリント） 第2回 第8章 腎・尿路系疾患（2） 腎炎、腎疾患について（教科書 pp.155～163） 第3回 第8章 腎・尿路系疾患（3） 腎不全、その他の尿路系疾患について（pp.163～180） 第4回 第9章 神経・精神系疾患 摂食障害、認知症、その他の神経・精神系疾患について（pp.181～191） 第5回 第10章 呼吸器系疾患（1） 肺炎、慢性閉塞性肺疾患について（pp.192～201） 第6回 第10章 呼吸器系疾患（2） 喘息、その他の肺疾患、酸塩基平衡について（pp.201～206） 第7回 第11章 血液・造血器系疾患（1） 貧血について（pp.207～215） 第8回 第11章 血液・造血器系疾患（2） 造血器腫瘍性疾患、出血傾向をきたす疾患について（pp.215～222） 第9回 第12章 運動器（骨格系）疾患（1） 骨粗鬆症、骨軟化症について（pp.223～230） 第10回 第12章 運動器（骨格系）疾患（2） 変形性関節症、その他の運動器疾患について（pp.230～234） 第11回 第13章 皮膚系疾患 熱傷と褥瘡について（pp.235～242） 第12回 第14章 免疫・アレルギー系疾患（1） 免疫について（配布プリント） 第13回 第14章 免疫・アレルギー系疾患（2） アレルギー疾患、膠原病について（pp.243～252） 第14回 第15章 婦人科疾患 婦人科の腫瘍性疾患、子宮内膜症、更年期障害、妊婦に特有の疾患について（pp.253～262） 第15回 第16章 加齢・疾患に伴う変化 老化、炎症、変性、壊死、腫瘍、個体の死、について（pp.263～273）
学習到達目標	主要疾患について、その成因、発症・進行に伴う生体の形態や機能の変化を説明できる。 各疾病の病態評価や診断・治療の基本的な考え方を説明できる。 各疾病と代謝・栄養とを関連づけることができる。
授業の方法	教科書に沿って、プロジェクターを使用し、講義形式で授業を進めます。毎回小テストを行い理解度を確認します。
成績評価の方法	定期試験（80％）、小テスト・授業態度（10％）、課題（10％）により総合的に評価します。
教科書・テキスト	「栄養科学イラストレイテッド 臨床医学 疾病の成り立ち 改訂第2版」、田中 明、宮坂京子、藤岡由夫編、羊土社、2015 適宜、参考資料を印刷して配布します。
参考書	「臨床医学概論 第3版」、福井次矢・小林修平編著、建帛社、2012 「人体の構造と機能および疾病の成り立ち 疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」、竹中優編、医歯薬出版、2013 「解剖生理学 人体の構造と機能 改訂第2版」、志村二三夫、岡 純、山田和彦編、羊土社、2014

	「臨床栄養学 疾患別編 改訂第2版」、本田佳子、土江節子、曾根博仁編、羊土社、2016 「三訂 臨床栄養管理〔第3版〕」、渡邊早苗、寺本房子、松崎政三編著、建帛社、2015 「わかりやすい病理学 改訂第6版」、岩田隆子監修、南江堂、2016
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	2単位の取得には90時間の学修を必要とし、授業（30時間に相当）に出席する以外に60時間（実時間で180分×15回）の自修が義務付けられています。使用する教科書の該当する範囲を予習し、重要と思われる項目を整理して授業に臨み、授業後は、配布された資料等を含め授業内容を復習してください。
履修上の留意事項	日頃から人体のしくみと働き、さまざまな疾患について関心を持ち、基本的な知識を身につけてください。
オフィスアワー	金曜日の昼休みは、原則、研究室（4号館 4-408号室）に待機しています。 他の時間帯に訪問する場合には、なるべく事前連絡をしてください。
担当教員への連絡方法	授業時にメールアドレスを連絡します。携帯用メールではなく、PCメールアドレスを使用してください。 内線電話 4408 4号館4階 4-408号室
その他	授業中、積極的に発言・質問してください。私語は慎み、指示がなければ携帯端末等を使用しない。